

（2）災害拠点病院の指定

災害時において、被災地の医療の確保、被災した地域への医療支援等を行うことを目的として、平成10年から災害拠点病院を8病院（基幹災害拠点病院1病院、地域災害拠点病院7病院）指定しています。

災害拠点病院、DMAT指定病院一覧 （平成26年4月1日現在）

		医療機関名	DMAT編成数
基幹災害拠点病院		福井県立病院	3チーム
地域災害拠点病院	福井・坂井医療圏 奥越医療圏 丹南医療圏	福井県済生会病院	3チーム
		福井赤十字病院	3チーム
		福井大学医学部附属病院	3チーム
		福井勝山総合病院	1チーム
		公立丹南病院	1チーム
	嶺南医療圏	市立敦賀病院	2チーム
		公立小浜病院	3チーム
DMAT指定病院		福井総合病院	1チーム
合 計			20チーム

（3）災害派遣医療チーム（DMAT）¹

県内の災害拠点病院では、平成17年度以降、災害急性期（概ね発災後48時間以内）に災害現場へできるだけ早期に出向いて、①被災地内におけるトリアージ²や救命処置、②患者を近隣・広域へ搬送する際における必要な処置、③被災地内の病院における診療支援等を行うために、専門の訓練を受けた災害派遣医療チーム（DMAT）の配備を進めています。

県内では、平成25年3月末現在、8病院に19チームが編成されています。県とDMAT派遣機能を持つ病院との間では、DMATの派遣基準および災害現場での活動基準（指揮命令）等の運用基準を明確なものとする協定が締結されており、県の要請を受けてDMATが出動できる体制が整えられています。

また、日本医師会が被災都道府県医師会からの要請に基づいて各都道府県医師会に依頼して結成、派遣される医療チーム（JMAT）は、東日本大震災時の活動など重要な役割を果たしています。

（4）航空搬送拠点臨時医療施設（SCU）

県内の医療機関では対応しきれない事態のときに、必要に応じて、ヘリコプター等の航空機を活用して患者等を県外へ搬送するために、福井空港を広域医療搬送拠点としています。福井空港内に、患者の症状の安定化を図り、搬送のためのトリアージを実施するための臨時医療施設（SCU）を設置しています。

¹ DMATとは、1チーム5名（医師1～2名、看護師等3～4名）程度で、DMAT養成研修を受講した上で編成されます。災害現場で必要な機器（衛星携帯電話、トランシーバ、救急蘇生資機材、心電図モニタ、ポータブルエコー等）を携行します。

² トリアージとは、医療資源が制約される中で、傷病者に対して最善の治療を行うために、緊急度に応じて搬送や治療の優先順位を決めることです。